



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.14

2011年9月号

公益財団法人
School Aid Japan

〒144-0043

東京都大田区羽田 1-1-3

TEL: 03-5737-2773

FAX: 03-5737-2793

<http://www.schoolaidjapan.or.jp>

sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

新しい仲間とともに

8月8日から私達の農場に新しい仲間が加わりました。紹介をさせていただきます。

研修生として迎えた仲間は二人です。今まで孤児院「夢追う子どもたちの家」で生活しており、中学生の時から農業に興味を持ち、自ら進んで私達の農場で学びたいと希望してくれました。名前はソペアック（20歳）とチェットラー（18歳）です。

自ら志願していたこともあり、それぞれ夢と希望を持ってこの農場に来ました。その夢は以下の通りです。

「SAJ Farm で農業を学び、その後はこの農場で指導者的な立場につき、カンボジアの人々に農業を伝えていくこと（ソペアック）」

「自分の生まれた村のためにこの農場で農業を学び、その後は村に帰って教わったことを伝えたい（チェットラー）」

どちらも素晴らしいことだと思います。

「学ぶ」と一口に言いますが、学んで欲しいことは山のようにあります。農業のことはもちろんなのですが、孤児院「夢追う子どもたちの家」から離れることによって今度は自分自身で生きていくために仕事を覚えることを自覚してほしいのです。これは、一番大切なことです。

今までは里親様のご支援により、寝るところも、毎日の食事も衣類も全て支援して頂いていましたが、これからは違います。歯ブラシ1本でも自分で稼いだお金で買わなければなりません。

研修生がこれから学ばなければならないことは、研修生を迎えるわたしたちスタッフにとっても学ばなければならないことです。「研修生が必要としているのはどのような技術なのか」「この農場を、研修の場として学びやすく働きやすい環境にするにはどうしたらよいのか」ということを考えなければならないからです。彼らを研修生第一号として、近い将来には、毎年研修生を受け入れることとなります。研修生には、限られた時間の中で、作物栽培や土壌改良、機械の取扱いなどたくさんのことを学んで、彼らの夢や希望を叶えてもらいたいと思います。たくさん学びが得られる農場を目指して、私達も彼らと一緒に学んでいきます。



いつも陽気でおしゃべり好きな
チェットラー(18)



寡黙で仕事も黙々と進める
ソペアック(20)

次は私達の最近の活動をご報告します。



資材や道具を管理するための倉庫

- 職員による倉庫の建設

この倉庫は資材や道具の物置きとして使います。研修生とともにスタッフ6人で建設しました。

- 鶏小屋運動場の建て増し

小さな小屋の中だけで飼育したのでは、鶏に過度のストレスが溜まり、死んでしまうことから広い運動場を増設しました。

- 緑肥の鋤き込み

1ヘクタールのデモ区に特化して、畑や水田の土が見えないくらいに緑にしようと育てた陸稲(畑で栽培される稲)とマメ科の緑肥(植物の葉や茎を田畑にすきこんで腐食させ肥料とするもの)を鋤き込みました。

8月ごろから、短い時間ですが非常に激しく雨が降るようになりました。そのため、乾季のために蓄えている池の水は増え、それぞれの水田にも水が溜まっています。

7月中旬に孤児院「夢追う子どもたちの家」の子どもたちと田植えをした水稲は、昨年よりもずっと茎が太く葉の色も濃くなっており順調に生育を続けています。予測では、11月には収穫が出来ると思っています。

降雨量が増えたことによって問題も起きています。造成してからまだ日が浅いことと、短い時間に激しく降る雨の影響で、畝(うね)や道路が崩れることです。場所によっては大きく崩れてしまっているところも出てしまいました。これらには雑草を移植するなどの処置をしていますが、追いついておらず修復をする必要があります。

なかなか計画通りに進まなかったり、問題が発生したりとヤキモキするときもあります。しかし、その一方で嬉しいことが二つあります。一つは、緑肥として栽培している陸稲の成育が順調で青々と茂っていることです。この陸稲が育つと、鋤き込んだ際の有機物が増えることとなります。二つめは、孤児院「夢追う子どもたちの家」の子どもたちが植えてくれた水稲の成育が順調で、昨年よりも収量が増えると思われることです。「黄金色になりました！」と皆様にご報告できるよう、研修生を含めSAJFarm職員一同、精一杯頑張ります。



鶏小屋。運動場となる場所はネットで囲みました。



陸稲を鋤き込んだ後の様子

編集後記

8月下旬から9月中旬まで一時帰国をさせていただきました。1年半ぶりの日本でした。先に一時帰国をしていた仲間から「日本のほうが湿度が高いから…」と聞いていましたが、実際に飛行機から降りると日本はまだ残暑が厳しくカンボジアよりも暑く感じるくらいでした。帰国中はお世話になっている方々へのご挨拶と健康診断等であっという間の3週間でしたが、非常に有意義な日々を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。(飯島)